

# めだかの学校だより

平成 27 年 5 月 1 日  
第 88 号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL: 0539-62-6691

## 校長訓話

第八十八回 校長 藤田 潤吉



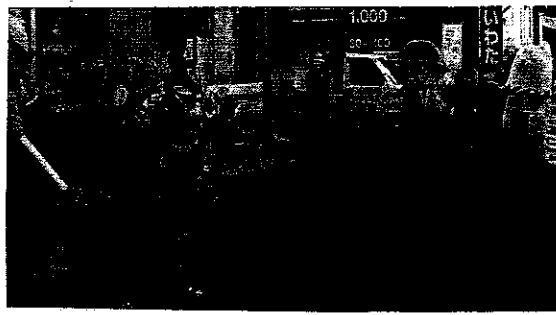
めだかの学校に入学して15年、校長という大役が瓢箪から駒のように降臨して来ました。趣味のチンドン屋も苦節？15年が過ぎ、5回連続の海外公演も今回はスイスの首都ベルン。スイスと聞いて様々なメンバーが集まり、中高校からの吹奏楽「すずめの学校」からも参加者があってチンドン屋「浜松・花蝶ちゃん」は総勢24人のベルン街道練り歩きが実現しました。

私自身はスイス出発の直前に肝臓

癌が見つかり余命半年と宣告されましたが、主治医の許可を貰ってスイスに出発しました。チンドンの楽しさをアピールして帰国した頃、バラさんから激励を頂きました。以前癌にかかったメダカの在校生に敢えて校長を依頼したところ、「延命」という結果が得られたと。だから今回は校長を命ずると暖かいメッセージが届きました。

癌の宣告を受けた時、従兄弟の小児科に相談をしました。従兄弟は「癌は素晴らしい病気だ、心臓麻痺や脳溢血みたいに一瞬で命を失う病気から比べたら半年は生きるという証明を頂いたようなもの、半年間をどうやって楽しく生きようかと考えて計画すれば必ず寿命が延びる」とのこと。チンドンで楽しく過ごせばよい結果が生まれると信じています。

今回の校長訓話では私と久枝メダ



26年1月3日「新春おもちつき会」の応援に  
(JR磐田駅前にて)



JAPANWEEK スイス公演ベルン(地元新聞より)  
中央SAXが潤吉・2人横のチンドン太鼓が久枝。

カ、それにアコーディオンで演奏活動している娘を加えて親子三人の楽しいチンドンを披露したいと思っております。

## めだかの学校伝言板

——第88回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

- 校長／藤田潤吉
  - 教頭／加藤ひとみ
  - 用務員／鈴木祐之
  - 給食係／村木謙式・鈴木祐之・大久保陽・野嶋一男  
中村やす代・加藤ひとみ・大場みや子  
山中幸子・今村純子・尾上美智子  
渡辺三ツ子(チーフ)
- ※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」  
TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成27年6月5日(金)6:20PMより  
受付／内田貴久・大場敬子・青木玉枝・斉藤昭(後見人)

- 22期通年テーマ：  
『初心にかえろう～あなたにとっての初心とは？～』  
今回のテーマ：  
《はっぱの「めだかの学校」祝米寿(88)》  
<時間割>  
●給食の時間～6月は88回を記念しての祝膳？～  
●開校88回を記念しての特別授業  
1時限40分 美術 田邊哲 先生  
「笑いは無限大…それを描く！?…とは」  
●先生を囲んで質疑応答は、笑って歌って踊っての人生  
前向き末広がり…で。 9:30閉校

# のだかたち

## ■東海道・遠州見付宿は江戸時代にタイムスリップ!

「下にい、下にい」、下座触れ(げざぶれ)の掛け声とともに、行列が一步一步、足を進めていく。時は江戸、ここは東海道、遠州見付宿。

去る平成廿七乙未 四月廿五日、第15回遠州大名行列が荘厳な雰囲気で行われ、宿場町全体が江戸時代にタイムスリップしました。先駆け(さきがけ)から始まり、行列見計(みはかり)、家老、藩侯や中小姓、お乗り物や姫君、そして医師や茶頭(さとう)を従え、江戸時代の参勤交代の様子そのもの。

今年も磐田市合併10周年の記念イベントとしての位置づけ。遠州大名行列は、見付宿だけでなく、池田宿、豊田郷社、中泉と、歴史あふれる磐田の東海街道筋や姫街道筋を歩き、磐田全体を江戸時代にタイムスリップさせるイベントとして、多くの観客に楽しんでいただけたことと思います。私は、過去に二度、行列の出演者として参加しましたが、今年も若者ボランティアと一緒に、行列スタッフとして参加しました。例年であれば、見付宿だけなので、そこまではない準備や段取りも、オール磐田ともなると、準備も数倍。それでも当日は、快晴に恵まれ、大勢の見物人が見守る中、無事行列を行うことができました。今回は、どの地域にいても、それぞれ町の屋台が並んでおり、祭囃子が大名行列をさらに盛り上げてくれました。見付本通りステージで行われた舞台上で

は、「一期一会 不昧と宗雅と見付宿」が行われ、史実より再現した出雲国松江藩の松平不昧(ふまい)候に扮した渡部修(わたべしゅう)市長と、播磨国姫路藩の酒井宗雅(そうが)候に扮した黒田晋(くろだしん)岡山県玉野市長が役を演じられ、ステージを沸かせていました。この行列で使う道具は、すべて映画会社から借用した本物の時代劇で使用される小道具たち。演じる中学生や大人たちも、役になりきり、この日ばかりは江戸時代の侍やお姫様を楽しんでいました。(草地博昭メダカ)

## ■「百古里めぐり」が開催されました

百古里と書いて何と読むかわかりますか? 地元の方以外だと、ほぼ読めないかも知れません。これは「すがり」。浜松市天竜区にある一小部落の地名です。「將軍杉」で有名な武速神社と茶畑や棚田の広がる、日本昔話に出てくるような典型的な日本の原風景とも呼べる地域です。

そんな百古里地区で、3月28・29日の2日間「百古里めぐり」が池谷啓メダカ発案のもと行われました。奥深い里ゆえ下界よりも少し遅れた桜満開の演出も手伝って、2日間で500人を超える来場者に百古里地区が始まって以来の賑わいとなりました。そば粉100%の手打蕎麦を出す「百古里庵」を中心に、百古里在住の茶農家・画家・陶芸家が工房を開放したり、普通に暮らしている人々までが自宅の縁側でお茶を提供したり、まさに全地区あげてのおもてなし。裏方では青背メダカも大活躍だったとか。(大島たまよメダカ)

## ■第13回全国まちづくり交流集会在北海道蘭越町

地方のチカラ発見伝! 温泉三昧 出会い

語りーをテーマに、第十三回全国まちづくり交流会 in 北海道蘭越町が、2015年8月28日(金)〜30日(日)の3日間、北海道蘭越町で開催される。

8月20日(金)午後5時半受付、6時から湯の里温泉郷特設ガーデンで前夜祭。29日(土)午前9時町内めぐり、温泉。本大会、会場は蘭越町山村開発センター。午後1時半開会式、ミニ講演は高知県馬路村の東谷望史さん。蘭越町の事例発表は蘭越高校の生徒さん。午後3時半、農・資源・文化・人口・自然「5つのキーワードで地方再生のヒントを見つけよう」の分科会。午後6時半蘭越自慢の農・畜・海産物で、大交流会。30日(日)自由解散。帰るもよし、残るもよし。

※なお、28日(金)の前夜祭終了後(午後8時ごろ)宿泊場所に移動して「地域づくりは面白い。地域を学び、地域で遊ぶためのヒューマンネットワークマガジン」が「火」の支局長と読者による交流会、露天風呂サミット」もある。

メダカの学校の静岡県からは支局長でもある、鈴木正士、溝口久、水島加寿代、村松達雄、榊原淑友、榊原幸雄が参加予定。参加希望の方は村松達雄(携帯090・7854・9725)へご連絡を!

## ■第33回地域づくり団体全国交流会石川大会

第33回地域づくりの再構築をたてわり地域づくりと円陣にをテーマに27年8月29日(土)〜31日(月)の3日間、能登演劇堂(七尾市)を全体会・交流会会場に、石川県内11地域を分科会場にして開催される。

第一分科会の輪島市は、「被災地に寄り添い、希望の芽を育む」、第二分科会の能登町は「私たちは奥能登で『世界遺産』を

育てている」、今話題の金沢市は「地域につながりを造るITアイディアワーク」。「金沢の中山間地での移住・定住を考える」など、分科会の切り口を「根源系」「資源系」「活動系」と分類して、地域の特徴を活かした分科会としている。

問合せは、第33回地域づくり団体研修交流会石川大会実行委員会事務局 076・225・1312 石川県企画振興部 地域振興課へ。

## ■第23回ジュニアオープンサーフィン選手権大会、第12回シニアマスターズオープンサーフィン選手権大会

磐田市福田の福田豊浜海岸を会場にサーフィンのジュニアとシニアのオープン選手権が、6月19日(金)〜21日(日)の3日間開催される。全国から450人位が参加すること。裏方を担当しているのは磐田市の芦川和美メダカ、草地博昭メダカ、榊原幸雄メダカから。

会場にはお店も並び、福田漁港の『漁師のどんぶり屋』の生しらすののった『海鮮丼』は最高。金・土・日のみ営業。メダカの学校でも「サーフィンクラブ」作ってやらない? 指導しますよ。とは芦川和美メダカ。

## ■静岡県指定天然記念物・渋川つじ祭り開催

静かな山間、新緑の中に芽を引く赤紫色の自然を満喫できるよ。開催期間は5月16日(土)〜31日(日)間毎日開催しています。

期間中「物産展」「鑑別試着体験」「グラウンドゴルフ渋川杯」「歌謡ショー」等数多くのサービスマスありです。お問合せは053・545・0452(てんでんこー渋川)

# 『人・ひと・ヒト』だより

●NHK・BSに「日本縦断 ニころ旅」という番組がある。俳優の火野正平が便りをもとに、その人の想い出の場所を数人のスタッフと自転車で旅をする。愛知県に入った時、「豊橋球場は今どうなっているか見て来てほしい」東栄町 森下幸子。エツ、東栄町 森下幸子。テレビに映った手紙の文字は、まさしく森下幸子メダカの子。70年ほど前の野球少年にあこがれた頃の淡い思いを綴ったものだった。すぐに電話を入れちゃった。(笑)

●静岡市の西島朋子メダカ。SBS静岡放送の夕方テレビ、若いデザイナーが話題のところを訪ねてスケッチする番組。西島朋子先生が料理教室をしているところ。生徒さんと一緒にハイどうぞ。すぐに電話したら、「ただいまこの電話は使われておりません」だった。

●藤枝の横山浩史メダカ。静岡新聞朝刊経済面の『キーパソン』の囲み記事に、取材記事が載っていました。伝統技術を習得し、そのうえに新しい感覚の製品を創っている。『桐筆筒』や『桐』への熱い思いや気迫はまさに職人の顔。いやあ、格好いい。

●浜松市引佐町の鈴木一記メダカ。農林水産省の『棚田百選』に選ばれている。「引佐町久留女木の棚田」の保全に取り組んでいる。7・7ヘクタールと県内屈指の面積を誇っていた棚田も、農家の高齢化が進み、放棄地も増え、現在は2ヘクタールと落ち込む。そんな現状を憂いて、農地を所有する農家と外部から入った耕作者が協力して保全活動と次世代への継承を図る。『久留女木竜宮小僧の会』を結成。立ち上げを主導した鈴木一記メダカ。本人も棚田の景観と魅力に取りつかれ、放棄地を借りて耕作に励む。12月の給食の二飯のお米は彼

の棚田米。写真もたいしたもの。自費出版の写真集は、『自主出版賞』も頂いている。●茨城県取手市の篠原準八メダカ。4月20日の中日新聞に紙面の半分を使って掲載されている。『野を歩き、食材』を探そう。道端や原っぱなど身近な場所にも食べられる野草がいっぱい。自宅近くを歩いて、セリやギンギシ、イタドリ、クローバー、タンポポ、ドクダミ、レンゲ、スミレ、天ぷらにおひたし。山野草研究家の篠原準八先生、面目躍如。NPO法人「日本つみくさ研究会」の理事長でもある。昨年「実用つみくさ薬効料理」(三五館)などの著書や料理教室、講演など摘み草の魅力発信と知識の普及に取り組んでいる。

●浜松市の上嶋常夫さん。天竜区水窪町のNPO法人「ミナの森プロジェクト」副理事長。北遠地域をモデルにした絵本「豆わたり」(岩崎書店)を発行・発売。原案は上嶋さん。作画は北区出身の水墨画家岡田潤さん。著者を使った「豆わたり」という競技を通じて、隣り合う2つの村が仲良くなつてゆくというお話、だって。上嶋さんは「めだかの学校20周年記念」の時、映画「ミナの森」の上演と講演をしてくれました。絵本は税別1300円。問い合わせは、同NPO法人053・987・0610へ。

●浜松市の北島多江子メダカ。27年1月よりNHK文化センター浜松教室でボランティアを目指す「朗読講座(6回コース)」の講師。もう終わったかな。高校生の時、ボランティアで朗読して下さった方の笑顔が『童話作家になりたい、自分が描いた絵本を朗読』して、「お話の世界を楽しめたら・・・」と思ったんだって。今はバステル和アートの出合い、文と絵の両方も創作できるように、朗読への夢も広がっている、と。

●磐田市の草地博昭メダカ。4月29日に

2800名の元気な男の子が生まれたんだって。名前は亮之介ちゃん。初めての子、お父さんメロメロ。イクメンお父さんになるためには、絵本の読み聞かせ、朗読はいいよ。

●磐田市の大久保陽メダカ。オーブンガーデンをやっている。チューリップが終わり、6月からは「あじさい」。日曜大工でテラドット。0538・32・5817へお電話を。

●袋井市の大橋町代メダカ。四月に開催された磐田市見付宿の「楽しい文化展」に書で参加。家康の銘文のある梵鐘がある宣光寺。お寺には「書」が合うね。お客さんの要望に応じて「書」を書いてやっている。伊藤英雄メダカ。今村純子メダカ。虫生時彦メダカがいる本部に「書」を書いてもらった」と喜色満面で寄る。この文化展では、小林佳弘メダカが歴史の二案内役で大活躍。80歳とは思えないね。

●森町の村松達雄メダカ。森町職員で、4月の異動で産業商工観光課係長から森町出納長に。来森の時は寄って下さい、と。

●袋井市の松本芳廣メダカ。静岡県農業振興公社の経営支援課・調整監・企業等の農業参入支援コーディネーターに。手打ちそば、うどん?生涯現役でやりますよ、とか。

《新入生の紹介》

●袋井市の青木玉枝メダカ。自然の中をてくてく歩くこと、聴くこと、観ること、創ること、だって。推薦は大橋町代メダカ。

●磐田市の大杉昌弘メダカ。カメラ・麻紐とピースのアクセサリーづくり、ジョギング、地域づくり、まちづくり、文化振興、地域福祉、国際交流、環境保護など、幅広く活躍していると。推薦は村田徳治メダカ。

●滋賀県守山市の草苗由美子メダカ。画家ですがポケットには色々なものがいっぱい

い。たたかせていただいたらいかがですか。めだかの生に関わるイベントを勉強したいと。推薦は水村春江メダカ。

●磐田市の高田正人メダカ。磐田市議だが、スポーツ、農園芸、おもしろいこと、楽しいことを企画実行したい、と。まさに「めだか派」にぴったりかも。推薦は榊原幸雄メダカ。

●島田市の橋本詔次メダカ。園芸家。音楽が好きで、サックスを習っているんだって。うむ、もしかしたら、サックスを吹きながら木と会話しているかも?。推薦は池谷俊裕メダカ。

●静岡市の森貴子メダカ。指遊びが大好き。還暦を迎えて、料理の作り方をめだかの学校で色々教えていただいて、いきいき健康で過ごしたい、だって。めだかの学校給食当番決定だね。推薦は西島朋子メダカと大場みや子メダカ。

●浜松市天竜区春野町の内田貴久メダカ。昨年の3月まで磐田市職員。春野町気田川の環境保全、森林の間伐、地域づくりや町づくりなど多くのイベントにも関わる。その域や地方公務員では納まりきれず、早期退職を選ぶ。苦難の道だが頑張っている。再入学だが新入生扱いとしました。推薦は尾上美智子メダカ。

××× ×××

今回は紙面の都合でこれまで。めだかの春秋は4面トピックスのあとに。

# トピックス

## ■お茶の葉を飲んで食べましょう

♪夏も近づく八十八夜トントント今は茶摘みの最盛期。茶農家のみなさんは猫の手も借りたい。そうですよ、引佐町の鈴木計芳メダカ、磐田市の鈴木正士メダカ、島田市の池谷俊裕メダカ、塚本佳男メダカ、喜瀬川はつ枝メダカさんら。

「せめて私たちは、美味しいお茶を頂きましょう」と、ちよっと変わった方法を考えました。『すすり茶』です。

知ってますか？煎茶道（煎茶の入れ方）で『茶閉点前』という作法があるのを。この点前は、お茶碗に茶葉を直接入れて、そこにお湯を注ぎ、フタをして茶葉が開いたらフタを少しずらして、すするようにして、お茶を楽しむ作法です。その飲み終わった茶葉を食べます。そのための茶器を陶芸家の鈴木青宵メダカに創ってもらいました。『すすり茶杯』です。

伊波多焼『すすり茶杯』は、飲み口に茶こしがあるため急須いらずで、茶葉を入れお湯を注いですすりだけ。三煎して飲み終えた茶葉はフタに移してポン酢をかけて食べる。ちよっと苦いけど美味しいですよ。そのお披露目を、お寺を借りてやりました。茶席には、磐田市商工観光課員、観光ボランティアふれあいガイドの会員、磐田市観光協会応援団ペコの会の大島たまよメダカ、今村純子メダカ、芦川和美メダカ、榊原幸雄メダカと観光協会職員ら。指導は創作者の鈴木青宵メダカ。磐田の寺社をぐるぐるつと散策、まちなかパワースポット『磐田見付』ありがた

歩記』のパンフレットを製作。神社仏閣を巡りながら、お寺でお茶をいただきながら住職さんの講話を聞く。どうですか？やりませんか。楽しいですよ。



## （めだか春秋）

### 自然神と語らう三遠南信の民俗芸能

ネパール大地震の被災状況が毎日のように報道されています。日々増える被災者数、行きわたらない支援物資。日本でも東日本大震災の爪痕が4年経っても消えず、未だ困難な状況で暮らす方々がたくさんいらっしゃるというのに。大地震被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。これでもか、これでもか、と次々押し寄せる自然の脅威。私たち人間は、この世に生かされている、小さな小さな存在ではないことを、改めて思い知らされます。

とはいえ、昔の人は、現在のようないくつかの民俗芸能をみても、人間本来の在り方、生き方が伝わってきます。自然神をお招きし、自らの心身を清め、実りを祈り、祝し、神と一緒に時を過ごす。そうしていつしか人々は、木々の声、風の声、土の声を聴き、感じる力を養っていったのでしょ。こうした民俗神事は、「長い伝統儀式だ

から受け継がなくては」という義務感ばかりでなく、自然と語り合うことを忘れてしまった、今を生きる私たちにこそ、本当に必要な神事だと思います。なかでも三遠南信エリアは、世界に誇る民俗芸能の宝庫であり、自然神と語り合える感性を持った人たち（めだかの皆さんですよ）がいっぱいいらっしゃると思います。この魅力を全国へ、世界へ発信していきたい！と思っています。

までです。同封の申込書に、入学金1000円を添えて継続手続きをお願いします。6月5日（金）の第88回めだかの学校に出席できなかった生徒は、27年8月31日までに事務局までお送りください。手続きがされない生徒は名簿からはずれ、自主退学となります。ご注意ください。新しく入校をされる方がいましたら事務局までご連絡下さい。申込書と資料を送ります。

## ■事務局だより

立夏もすぎ、山が動いているかのように見える。まさに若葉の季節。道端のアザミの花がほんとに綺麗。花瓶に生けて、新茶をいただく。いいねえ。

第86回めだかの学校は出席できなかったが3月6日の第87回は授業をちよっとのぞいて、途中で帰らせてもらいました。ある生徒が「バラさんの顔が見られてみんなホッとした雰囲気でしたよ。」人が話している時は、静かに聞け」と叱責した時、嬉しい顔をしている人が多かった。だって、さて、4月16日（木）は午後7時から学会で第88回の職員会議を開きました。

「88」は末広がりで縁起いい数字だからと、テーマは「ははははははのめだかの学校」祝米寿（88）授業は1時間40分「笑いは無敵大！それを描く！？」と「田邊哲先生の特別授業としました。藤田潤吉校長とい、田邊先生は共にちんどんをやる。尽。どんな授業になるやら。お楽しみに。加藤ひとみ教頭、鈴木祐之助事務局よろしくね。

■第23期の受け付けています。  
第22期のめだかの学校は、平成26年9月1日から平成27年8月31日までです。  
88回の授業をもって実質終わります。「第23期は27年9月1日から28年8月31日

## ■今回もめだかの学校だより遅れてごめんなさい。

いつもお手伝い頂いています。鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、服部守孝メダカ、大島たまよメダカ、草地博明メダカ、間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとう。

## ■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、8月1日予定。締切りは、7月20日です。ぜひご連絡を！郵便かFAXで。メールの方は、  
《edabuchi-trd@y. inc. ne. jp》  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
（メールの方は割付の関係もあるので二重書き）

## ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL05  
39・62・6691（FAX同じ）  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一  
宮3150。電話0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯080・1612・9130

